

令和 7 年度
教育委員会事務事業に係る外部評価表
(令和 6 年度事業対象)

○実施日 令和 7 年 8 月 2 6 日 (火) 午後 3 時

○場 所 せたな町役場 第 3 会議室

○外部評価委員

北檜山区北檜山 尾 野 覚

北檜山区丹羽 阿 部 紹 子

瀬棚区本町 神 田 和 浩

大成区宮野 梶 田 昌 好

令和7年度せたな町教育委員会(学校教育)実施事業評価一覧表(令和6年度事業対象)

総務・学校教育

事務事業（評価項目）		実施状況	自己評価（成果と課題）	外部評価委員意見	評価
					R7
1	教育委員の活動	○委員会開催（7回）（4月1日～3月31日開催分） ○小中学校学校訪問 全6校（7月8日・9日・12日） ○全道研修会（札幌市7月17日～18日） ○管内研修会（函館市11月11日～12日） ○せたな町総合教育会議（12月25日）	○教育委員会での案件審議、学校訪問での意見交換など活動が円滑に行われている。 ・地域の実情に応じた教育の振興が図られている。	自己評価どおりで良い	A
2	学校経営の円滑な推進	○定例校長会議における教育長示達 ○各月毎の学校経営重点及び学校経営報告書の提出 ○教育課程の適正な管理及び学習指導要領の趣旨を踏まえた円滑な実施のための指導・助言 ○教職員の服務規律保持の指導 ○生涯学習指導主事の学校訪問（各学期毎）	○毎月開かれる定例校長会議において、教育長示達の中で教育行政執行方針の具現化に努めていた。 ○各学校から毎月「学校経営報告書」、各学期末には「学校運営に係る自己点検票」、学年末には「教育執行方針達成度調査」の提出を求め、各校の実践事項や実情の把握に努めることができた。 ○教職員の服務規律等の厳守については、定例校長会議・教頭会議の中で資料を用いて指導が図られた。 ○町生涯学習指導主事の学校訪問は各学期毎に定期的 に実施、教育局指導監訪問・教育局指導主事訪問は、必要に応じて随時実施した。その際、各校の学校経営・学習指導・生徒指導等に関わる指導・助言を行うことができた。 ○学習指導要領・中教審答申の趣旨を踏まえ、教育課程の円滑な実施のための指導・助言。 ・各校で学習指導要領の趣旨を踏まえた取り組みがされている ・教職員の服務規律指導のさらなる徹底に努める。	自己評価どおりで良い	A
3	学力の向上対策	○全国学力・学習状況調査及び町独自に標準学力検査を実施 ○「せたな町学力向上改善プラン」に基づく学習指導の改善	○全国学力・学習状況調査については、実施後本校で、採点結果を分析し日常の学習指導や各学校の「学力向上改善プラン」作成に生かした。 ○各学校においては、全国学力・学習状況調査の結果を	自己評価どおりで良い	A

事務事業（評価項目）		実施状況	自己評価（成果と課題）	外部評価委員意見	評価 R7
		○学校図書室支援員の配置による学校図書室の有効活用の支援 ○家庭と連携した家庭学習の習慣化について、各学校での取り組み推進に向けての指導・助言 ○ＩＣＴ機器の活用による授業改善に向けた環境整備 ○チャレンジテストへの全校参加と学力向上に向けた活用 ○学習支援員の配置	踏まえ、教育委員会作成の「せたな町学力向上改善プラン」をもとに学校独自の「学力向上改善プラン」を作成し、学習指導等の改善に取り組んだ。また、標準学力検査を実施し、学力の達成状況を把握した。 ○各校では、朝読書の時間を入れたり、廊下・教室に図書を配置するなど、児童生徒の読書活動の習慣化に努めた。また、学校図書室支援員を活用し、学校図書室の環境が整備され読書活動が活発になっている。 ○各学校でＩＣＴを活用した授業が行われ、児童生徒の学習意欲が高まっている。また、各小学校においては、プログラミング教育の授業が行われ論理的思考力を身につけるための取り組みが行われている。 ○AIドリルを活用した家庭学習等への取り組みが広がってきている。 ・令和6年度の全国学力・学習状況調査では、小中学校ともに国語・算数（数学）の2教科が実施された。小学校では2教科とも全国平均よりも高い結果となり、国語、算数ともに難しいとされる「記述式」の問題も全国平均以上の結果となった。中学校では2教科とも全国平均以下の結果となった。国語においては「我が国の言語文化」が高い結果となったが、記述式が苦手な傾向が見られ、数学では全体的に低い結果となった。各学校では、それぞれ採点結果を分析し、課題を明確にした上で、学力向上プランに基づき、授業改善や家庭学習の充実に向けた取り組みが行われている。 ・全国学力・学習状況調査等の結果に基づいた学力向上プラン作成と児童・生徒が学習することに意味を感じられる授業改善の実施。家庭と連携した学習習慣定着の取組の推進。		
4	道徳教育の推進	○「考え、議論する道徳」に向けた授業の工夫改善・充実への指導・助言 ○道徳科の教科書、北海道版道徳教材「きたものがたり」の活用に向けての指導・助言	○北海道版道徳教材「きたものがたり」を活用した「道徳科」の授業の改善・充実については、日常実践及び校内研修等で取り組みがされている。 ○参観日等における「道徳科」の授業公開については、	自己評価どおりで良い	A

事務事業（評価項目）		実施状況	自己評価（成果と課題）	外部評価委員意見	評価
					R7
		○参観日等における「道徳科」の授業公開を実施	年間計画に位置付けられ、道徳授業を実際に保護者へ理解してもらうと共に、学校と家庭の連携した取り組みが進められた。 ・「道徳科」の年間計画が児童生徒の実践に応じて編成されるとともに、道徳教育推進教師を中心に、校内研修（評価の仕方等）が行われ、道徳科授業の充実を目指している。中学校では、担任だけでなく学年部の教職員もまた道徳の授業を実施し、奥行きのあるものとなっている。 ・自他との関係を良好に保つことと、自己実現を図ることの両立を目指し「考え、議論する道徳」の授業を一層充実させる。		
5	特別支援教育の推進	○特別支援教育連携協議会の年3回の開催と連携協議会だよりの発刊 ○「個別の教育支援計画及び個別指導計画」の作成 ○「特別支援教育支援員」の配置 ○WISC IV研修会の実施(10月)	○特別支援教育連携協議会を年3回開催し、教育・福祉・行政等の関係機関が連携し、実態把握・情報交換を行うとともに、連携協議会だよりを年3回発刊し、保護者・地域への啓発活動を行った。 ○就学前の幼児を対象にした就学児知能検査、2次検査、保護者への通知、必要に応じての保護者との面談、教育支援委員会での審議の流れが適切に行われた。 ○当該学校では、特別支援学級在籍者を中心に、長期的支援を見据え「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」の作成が定着している。 ○特別支援教育支援員は、町内6校に計13名が配置され、特別な支援を要する児童生徒の生活・学習支援を行い、児童生徒のつまづきなどに随時対応することができた。（北檜山小学校7名・瀬棚小学校2名・久遠小学校1名・大成中学校1名・北檜山中学校2名）計13名 ○就学時の2次検査の検査者を教育委員会職員及び町内の学校教員の中から確保するため、スクールアドバイザーを講師にWISCIV研修会を実施し、就学児の2次検査を適切に進めることができ、教育支援委員会につなげることができた。	自己評価どおりで良い	A

事務事業（評価項目）	実施状況	自己評価（成果と課題）	外部評価委員意見	評価
				R7

			・特別支援教育連携協議会をととして、幼・保・小・中・高・養護学校と福祉等の行政機関が連携することで、情報交換、啓発活動などが綿密に行われ、町内の特別支援教育が適切に行われている。 ・各学校・家庭において、特別支援教育支援員の配置要望が多くなってきていることから、予算措置や人員確保などの他、2次検査の検査者の確保・育成に努める。また、WISC 検査の結果を判断基準とするのではなく、保育施設・学校と連携を密にし、普段の様子から支援が必要かどうか判断できる体制づくりに努める。		
6	外国語指導助手（ALT）等の派遣	○外国語指導助手 各小学校（3～6 年）週 4 回派遣（月…北小・瀬小 火…久小 水…瀬小 木…北小・久小） ○外国語指導助手 各中学校 週 3 回派遣（月…瀬中 火…大中 木…北中） ○英語指導助手 各小学校（3～6 年）週 4 回派遣（月…北小 火…久小 水…瀬小 木…北小）	○小学校 3 校の 3～6 年には英語指導助手、3～6 年生及び中学生には外国語指導助手を派遣し、英語に関する関心や語学力の向上が図られた。 ○ALT の空き時間を活用して希望する学校や認定こども園に追加派遣し、英語に触れる機会やコミュニケーション能力の育成に努めた。 ・英語に触れる機会があることで、児童の学習意欲が高まっている。また、小学校で令和 2 年度から始まった外国語科の指導に向けて、授業力・英語力の向上に努めることができた。 ALT が 2 人と英語指導助手 1 人の 3 人体制で実施することができました。 ・現在の体制を確保したい。	自己評価どおりで良い	A

事務事業（評価項目）		実施状況	自己評価（成果と課題）	外部評価委員意見	評価
					R7
7	生徒指導の充実	○各学校での全教職員による生徒指導体制の確立 ○道教委のスクールカウンセラー派遣 ○町教委のスクールアドバイザー派遣 ○生涯学習指導主事への相談（学校訪問及び随時）	○各学校においては、いじめ未然防止基本方針をもとに、管理職を中心に組織的な対応が進められた。 ○いじめ対策については、全校で年間最低2回の「いじめアンケート」や教育相談が実施され、未然防止・早期発見・早期対応の取り組みが行われた。 ○令和6年度の「いじめアンケート」から、「嫌な思いをしたことがある」の回答があった件に関しては、聴き取りや適切な指導を行っており、いじめとしての認知は15件確認された。 ○各学校へ道教委のスクールカウンセラーを派遣し、学校と連携して教育相談に当たった。 ○町独自のスクールアドバイザーを配置し、学校と連携して不登校生徒・その保護者や指導上の悩みを抱える教職員の対応に当たった。 ○令和6年度の不登校児童生徒数は、15名（小学校7名、中学校8名）で継続した指導支援が必要である。 ※学校と連携を図り、週1回の教育支援センター「陽だまり」で学習の援助をする。 ○町教委としては、不登校児童生徒の状況について毎月報告を求め、実態把握に努めるとともに、町指導主事やスクールアドバイザーが必要に応じて各校を訪れ、いじめ・不登校についての情報収集や対応等について指導助言を行った。 ・校内で生徒指導に関する研修会等を開催し、教職員同士の情報を共有し、共通理解を図っている。また、月例の校長会議や生涯学習指導主事やスクールアドバイザーへの相談を通して町教委との連携を図っている。 ・今後も不登校児童生徒等のサポートに努める。	自己評価どおりで良い	B
8	教職員の資質能力の向上	○各学校における校内研修の促進 （檜山教育局指導主事及び町指導主事による学校指導訪問） ○せたな町教育研究会の充実	○各学校では、研修部を中心に研修計画が立てられ、それに沿って校内研修が推進されていた。 ○教育局指導主事及び町指導主事による学校指導訪問は、予定どおり進められ、各校の経営状況や児童生徒	自己評価どおりで良い	A

事務事業（評価項目）		実施状況	自己評価（成果と課題）	外部評価委員意見	評価
					R7
		（サークル活動の活発化） ○町内各種教育団体への支援 （生徒指導連絡協議会、特別支援学級教育研究会、へき地複式教育研究会等） ○北海道教育研究所、檜山教育局主催の研修講座への参加	の実態把握、その後の指導・助言に大いに役立った。 ○町教育研究会及び町内各種教育団体の活動は、予定どおり活発に行われ、教職員の資質・能力向上に寄与した。 ○各種研修事業については、北海道教育研究所や檜山教育局主催の研修などに、参加することができた。 ・多くの教職員が各種研修会へ参加したことにより、教職員の資質・能力の向上が図られ、各学校の授業改善に役立てられた。 ・研修へのさらなる参加を促す。新しい研修機会の拡充と支援。		
9	食育教育の推進	○栄養教諭による食育推進事業の実施 栄養教諭による各学校における「食に関する指導」及び「栄養指導」の実施 ○職場体験学習実習生の受け入れ ○学校給食だよりの発行（毎月） ○安心安全な地元食材の活用 ○せたな産食材を使用した「ふるさと給食」の提供 ○アレルギー児童生徒の把握と必要に応じた対応 ○有機農業の日に合わせ、有機農業に関する授業及び有機農産物を使用した給食の実施(12/9)	○町内小中学校において、栄養教諭による学年に応じた食習慣等に関する実践的な指導食を実施し、児童生徒の食に対しての意識を高めることができた。 ○給食だよりの発行により保護者に知ってもらいたい情報を盛り込み、家庭への食の大切さの啓発や連携を図ることができた。 ○年2回せたな産給食の日を設け、「ふるさと給食」として地元食材を使用した給食を提供し、地域産業への関心と生産者への感謝の心を育むことができた。 ○給食センターと学校が連携して、食物アレルギーをもった児童生徒の情報を共有し、給食における事故の未然防止を図ることができた。 ○有機農業に関する授業及び有機給食を実施することで、地域の有機農業の理解促進が図られた。 ・食育の推進を図ることができた。 ・安心安全な給食の提供に努め、学校と連携し食育の推進を図る。	自己評価どおりで良い	A
10	幼児教育の充実	○特別支援教育についての研修会や共通理解に基づいたきめ細かな指導の工夫 ○幼児教育と小学校教育の共通性や独自性を明確にした相互の連携や研修等の促進	○特別支援教育連携協議会をととして、情報交換・啓発活動等が綿密に行われている。 ○各小中学校で新入児童1日体験入学の実施。 ○交流学习については、全校で実施。（相互交流） ・各小中学校で新入学児童1日体験入学を実施し、交流学	自己評価どおりで良い	A

事務事業（評価項目）		実施状況	自己評価（成果と課題）	外部評価委員意見	評価
					R7
			習についても実施された。また、特別支援教育連携協議会をとおして、情報交換・啓発活動等が綿密に行われた。 ・引き続き、認定こども園や保育所（園）との連携を図る。		
1 1	学校健診事業の充実	○児童生徒内科検診 306 名実施 ○児童生徒歯科検診 302 名実施 ○児童生徒尿検査 324 名実施 ○児童生徒心臓（心電図）検診 72 名実施 ○児童生徒眼科検診 306 名実施 ○児童生徒耳鼻咽喉科検診 298 名実施 ○中体連駅伝選手心臓検診 実施なし ○就学時検診 29 名実施	・学校と関係機関との連携の下で、学校保健法に定められている各種健診を計画的に実施し児童生徒の健康管理に努めることができた。 ・児童生徒が内科・歯科検診を欠席した際に、保護者が病院・診療所へ直接連れて行くことで対応することができた。 ・各種健診を計画的に実施できた。児童生徒が内科・歯科検診を欠席した際の対応をすることができた。 ・スムーズに検診を実施できるよう、学校・病院・教委で連絡を密にする。	自己評価どおりで良い	A
1 2	地域に開かれた学校づくりの推進	○経営方針の説明、学校だよりの配布 ○学校支援地域ボランティアの人材を外部講師として招聘 ○学校運営協議会（北檜山小・中は単独設置。久遠小・大成中、瀬棚小・瀬棚中は合同設置。）	○各校では、年度当初の参観日等で経営方針の説明を行うとともに、学校だよりやブログ、ホームページ等で日常の児童生徒の様子を保護者や地域に知ってもらえるよう努めた。 ○学校からの情報提供はよくなされており、委員からの意見も取り入れることが出来た。 ○学校支援地域ボランティアについても、各校の計画に沿って積極的に活用された。 ・全学校に学校運営協議会が設置され、地域と連携し学校運営に取り組んでいる。大成区、瀬棚区は小中合同となり、北檜山区は年 1 回合同会議を開催するなど小中の連携が図られている。 ・学校運営協議会等の意見を取り入れた特色ある学校運営の指導・支援。	自己評価どおりで良い	A
1 3	子どもの安全確保	○各学校での「危機管理マニュアル」及び「火災や地震時の防災訓練」の点検・見直し、及び学校の立地条件に応じた火災・地震・津波・洪水などの実践的な対処や訓練の実施に向けての指導・助言	○各学校における「危機管理マニュアル」の点検と見直しが行われ、災害時における立地条件に即した対処・訓練が行われた。 ○各学校では、防犯訓練・防犯教室など実際の場面に即した訓練を実施することで危機管理下における児童生	自己評価どおりで良い	A

事務事業（評価項目）		実施状況	自己評価（成果と課題）	外部評価委員意見	評価
					R7
		○交通安全教室・防犯教室・薬物乱用防止教室等の実施に向けての指導・助言 ○各区毎に地域の関係機関・団体との情報交換を行い、町内安全パトロール実施 （生徒指導連絡協議会～各学校の決まり確認、子どもの様子等の情報交流） ○せたな町通学路安全推進協議会を設置し、「通学路交通安全プログラム」を作成。プログラムに基づいた、町内各学校の通学路の確認・点検・改善 ○各小中学校における1日防災学校の実施	徒の安全確保が図られた。 ○各区内の関係機関・団体と連携しながら、登下校時や帰宅後の安全指導を実施した。 ○各小中学校において地域住民や保護者、関係機関と連携・協働した「1日防災学校」を実施したことにより、児童生徒の防災意識の向上が図られた。 ・全校で交通安全教室や1日防災学校を実施し、児童生徒に対する交通安全、防災教育の推進が図られた。 ・平成29年度に実施した通学路合同点検により大成区の道道北檜山大成線について、道路幅が狭く歩道がないため車との接触の危険がある。（通学路交通安全プログラムによる歩道新設事業が令和8年度事業完了予定）		
14	児童生徒への就学援助	○要保護世帯 【小学生】 0名 【中学生】 1名 計 1名 ○準要保護世帯 【小学生】 33名 【中学生】 21名 計 54名 入学前新入学児童生徒学用品費 ○準要保護世帯 【小学生】 2名 【中学生】 6名 計 8名	○学校と連携のもとで、経済的援助を必要とする世帯に対して学用品費・修学旅行費等への支援ができた。 ・就学援助をすることにより安心して就学することができることから、今後も継続する必要がある。	自己評価どおりで良い	A
15	学校教育環境の整備充実	主な整備・修繕内容 ○各小中学校エアコン設置工事 155,210千円 ・各小中学校の普通教室等へエアコンを設置し、児童生徒の安全管理に努めた。 ○久遠小学校窓サッシ改修工事 583千円 ・経年劣化により開閉に支障をきたしている窓サッシの改修を行い適正な施設の維持管理を図った。 ○瀬棚中学校体育館外壁改修工事 2,112千円 ・老朽化した体育館外壁(東側)を改修し、施設の	○児童生徒が安心・安全な学校生活を送るため、老朽化した学校施設について、必要箇所の修繕を随時実施し適正な維持管理に努めた。 ・改修や更新等を行い学校施設の適正な維持管理に努めることができた。 ・老朽化した校舎や教員住宅の改修等を実施し、引き続き適正な維持管理に努める。	自己評価どおりで良い	B

事務事業（評価項目）		実施状況	自己評価（成果と課題）	外部評価委員意見	評価
					R7
		適正な維持管理を図った。 ○大成中学校暖房用膨張タンク更新工事 2,503 千円 ・膨張タンク本体の故障により暖房設備の故障や、暖房配管に不具合が多発することから更新工事を行い、適正な維持管理を図った。 ○大成中学校オイルタンク改修工事 8,250 千円 ・平成7年の建設当初から使用している地下の老朽化したオイルタンクを撤去し、新たに地上タンクを設置し適正な施設の維持管理を図った。 ○北檜山中学校ガラント`車庫シャッター改修工事 483 千円 ・老朽化により倉庫のシャッターが腐食して開閉時に危険を伴うことから改修工事を行い施設の適正な維持管理を図った。			
16	教育の情報化の推進	○せたな町学習用端末検討委員会(令和6年度) ・委員会 5回開催、研修会 1回開催 ○GIGA スクール端末購入 ・令和2年度に全小学校と大成中学校。令和4年度に瀬棚中学校、北檜山中学校へ配備したことにより、児童生徒に1人1台端末が配備された。 ・令和6年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問調査はMEXCBTを活用してオンラインで実施 ○A I ドリル導入 ・令和5年度から全小中学校へ(株)COMPASSのA I ドリル「キュービナ」を導入したことにより、児童生徒の学習状況や理解度の管理が容易になった。(令和4年度に学校要望として久遠小学校で利用実績あり、校長会からも令和5年度から全小中学校への導入について要望があったため。) ○教育ネットワークアセスメントの実施(令和6年度) ・現状のネットワークを分析・診断することで、ネットワーク環境の現状を把握するとともに、問題点や改善	○情報機器を活用した授業の工夫・改善が図られた。 ○ICTを活用したことにより個別最適化された学びが確保された。 ○オンライン交流授業などの実施によるICTの活用が図られた。 ・A I ドリルの導入や ICT 機器の整備により、学習環境の整備が図られた。 ・1人1台端末の更新(令和7年度購入、令和8年度から使用予定) ・校務用端末の更新(令和7年度更新済) ・大型モニターの整備(令和7年度整備済) ・ICT支援員の配置(令和7年8月から配置済) ・教育ネットワークの整備(令和7年度整備予定) ・各学校におけるICT担当者の育成及び教員のICT活用指導力の向上	自己評価どおりで良い	A

事務事業（評価項目）	実施状況	自己評価（成果と課題）	外部評価委員意見	評価
				R7

		策を確認することができた。																																																			
17	フッ化物洗口事業の推進	○各学校で保護者より実施についての承諾を得られた児童・生徒に対して行った。 ※R7年3月現在　合計 281 名（実施率 84.1%） 【内訳】 ・ 小学校 <table><tr><td></td><td>生徒数</td><td>実施</td><td>未実施</td></tr><tr><td>久遠小</td><td>17</td><td>14</td><td>3</td></tr><tr><td>瀬棚小</td><td>29</td><td>24</td><td>5</td></tr><tr><td>北檜山小</td><td>153</td><td>142</td><td>11</td></tr><tr><td>合計</td><td>199</td><td>180</td><td>19</td></tr><tr><td>実施率</td><td>90.5%</td><td></td><td></td></tr></table> ・ 中学校 <table><tr><td></td><td>生徒数</td><td>実施</td><td>未実施</td></tr><tr><td>大成中</td><td>11</td><td>8</td><td>3</td></tr><tr><td>瀬棚中</td><td>23</td><td>10</td><td>13</td></tr><tr><td>北檜山中</td><td>96</td><td>83</td><td>13</td></tr><tr><td>合計</td><td>130</td><td>101</td><td>29</td></tr><tr><td>実施率</td><td>77.7%</td><td></td><td></td></tr></table>		生徒数	実施	未実施	久遠小	17	14	3	瀬棚小	29	24	5	北檜山小	153	142	11	合計	199	180	19	実施率	90.5%				生徒数	実施	未実施	大成中	11	8	3	瀬棚中	23	10	13	北檜山中	96	83	13	合計	130	101	29	実施率	77.7%			○実施している児童・生徒の歯・口腔の健康増進につながり、特に小学校では実施率 90%越えを達成できた。 ○感染症対策を行いながら、各学校実施することができた。 ・ 未実施となっている児童生徒の保護者への啓発を行いながら、今後も継続して実施する。 ・ 未実施となっている児童生徒の保護者への啓発を継続していく。	自己評価どおりで良い	A
	生徒数	実施	未実施																																																		
久遠小	17	14	3																																																		
瀬棚小	29	24	5																																																		
北檜山小	153	142	11																																																		
合計	199	180	19																																																		
実施率	90.5%																																																				
	生徒数	実施	未実施																																																		
大成中	11	8	3																																																		
瀬棚中	23	10	13																																																		
北檜山中	96	83	13																																																		
合計	130	101	29																																																		
実施率	77.7%																																																				
（評価指標）　A　十分達成されている　　B　おおむね達成されている　　C　やや不十分である　　D　不十分である																																																					

令和7年度せたな町教育委員会(社会教育・体育振興)実施事業評価一覧表(令和6年度事業対象)

社会教育・体育振興

推進項目 (事業名)		事業の目的 (目標)	実施状況	自己評価(成果と課題)	外部評価委員意見	評価
						R7
18	幼児教育	関係機関や団体等との連携・協力による学びの場の提供	①ブックスタート事業(月1回) 対象者24名 ②ボランティア交流研修会 (読み聞かせや乳幼児との関わり方) 1/29開催 参加者1名	・保健福祉課と連携し24名の乳幼児にブックスタートパックを配布できた。 ・研修会ではNPO法人ブックスタートのオンライン研修を活用し、子どもの権利に根ざしたウェルビーイングやコロナ禍を経て、各自治体でどのような変化があったか情報共有することができた。 ・計画どおり事業が実施できたが、研修会の開催方法および日程や周知方法について改善が必要である。 ・事業の充実を図るため新規ボランティアの確保が必要である。 ・研修会へ多くのボランティアが参加できるよう日程や周知方法について検討する。	自己評価どおりで良い	B
19	青少年教育①	自然体験活動や集団活動などの学習機会の提供	①自然体験活動の実施 ・7/28 自然体験事業「せたなの自然観察」真駒内神社 小学3年生以上6名 ②ふるさと学習の実施(愛知・原田森林) ・9/4 森の自然観察 北檜山小学校2年生 ・9/5 森の自然観察 久遠小学校5～6年生 ③放課後休日体験の実施 ・5/22～3/5 少年少女英会話教室(36回)24名 ・9/17～9/27 北海道教育大学函館校連携事業 大学と連携し実習で受入した学生を活用した放課後事業	・自然体験事業を家庭教育講座と連携して実施できた。 ・北海道教育大学函館校と連携した事業が実施できた。 ・計画どおり事業が実施できた。 ・ふるさと学習を組み合わせた自然体験事業の実施や大学生を活用した事業の展開が必要である。	自己評価どおりで良い	A
20	青少年教育②	世代間交流や交流活動	①ボランティアの活用(全40回) ・8/22～8/29 水泳授業(全3回)大成中学校 ・9/27 演劇教室 大成中学校 ・11/8 食育教室(サケのさばき方・調理)北檜山中学校2年生	・地域住民の協力によりさまざまな学校支援事業が実施できた。 ・支援事業が効果的に活用されている。 ・講師等の紹介含めニーズにあわせた支援体制の整備を進める必要がある。	自己評価どおりで良い	A

推進項目		事業の目的	実施状況	自己評価(成果と課題)	外部評価委員意見	評価
						R7
			・5/23～12/16 稲作体験（丹羽地区等・全5回）北檜山小学校3年生 ・12/10～12/19 柔道授業(全4回)大成中学校 ・12/16 食育教室（稲作について・おにぎりづくり）北檜山小学校3年生 ・2/6～3/14 音楽授業（全8回）大成中学校 ・2/19 音楽授業（民謡）大成中学校 ・1/22～2/17 スキー指導(全12回)北檜山小学校 ・1/24～2/14 スキー指導(全4回)瀬棚小学校 ②ジュニアリーダーの育成 ・6/28 少年の主張檜山地区大会（せたな）への派遣 3名 町内全中学校参観	・ボランティア人材の整理が必要である。		
2 1	青少年教育③	青少年教育の健全育成	①生涯学習講座（青少年健全育成）の実施 ・10/4 青少年健全育成（性教育）北檜山中学校（大成・瀬棚中学校は性教育と薬物乱用防止教育を予算が伴わない形で実施）	・町内中学校に対して計画的に事業展開ができた。 ・計画的に事業を実施できた。 ・今後も青少年に対して継続的な事業展開が必要である。	自己評価どおりで良い	A
2 2	成人教育	地域・団体への参画支援	①地域・団体への支援 ・学び合いネットワーク事業（町民主体事業への講師派遣）【希望なし】 ・文化協会「夏休みたいけん講座」開催支援 7/30 書道体験 11名 7/31 そば打ち体験 20名 ・情報センターで読み聞かせ団体「ピノキオの会」による、おはなし会開催（10回） ・2/17 教育・文化・スポーツ表彰 7 団体1個人を表彰 ②多様な学習機会の提供 ・8/14 二十歳のつどい 31名 ・5月～3月大人の英会話教室(全34回)31名 ③家庭教育に関する支援や学習機会の提供 ・7/28 家庭教育講座「親子でわくわく体験広場」160名（ボランティア含む）	・団体の活動支援や家庭教育支援事業の拡充ができた。 ・団体活動の支援を進めることができた。 ・成人が参加しやすい事業の展開が必要である。 ・社会教育担当の人員が不足しているため効果的な事業展開が難しい状況である。（適切な人員配置が必要）	自己評価どおりで良い	B

推進項目		事業の目的	実施状況	自己評価(成果と課題)	外部評価委員意見	評価
						R7
2 3	高 齢 者 教 育	いきがいを高める多様な学習機会の充実	①各区高齢者大学の開設 ・北檜山いきがい学園 16 名 ・大成くおん大学 21 名 ・瀬棚寿大学 7 名 合計 44 名 ②世代間交流の提供 ・ニュースポーツ体験事業（親子でわくわく広場・モルック体験）7/28 約 30 名 ・北海道教育大学函館校実習生受入事業 9/19 大成くおん大学・モルック体験 ③自主的サークル活動への支援 ・高齢者大学事業（いきがい学園サークル活動/切り絵・押し花・絵手紙・映画等） (R7 から高齢者大学の名称を生涯教育大学へ)	・各区において活動を進めることができた。 ・計画どおり実施することができた。 ・継続して様々な学習機会を提供していく必要がある。 ・高齢者大学の名称を変更し世代間交流を進めていく。	自己評価どおりで良い	A
2 4	読 書 活 動 の 推 進	乳幼児から高齢者まで読書に親しめる環境づくり	①図書資料の充実 図＝図書購入（一般書・児童書・専門書等） 雑＝雑誌 新＝新聞 D＝DVD 等 ・情報センター 図 299 冊 雑 154 冊 新 1 種 D0 本 ・大成図書館 図 259 冊 雑 120 冊 新 1 種 D0 本 ・生涯学習センター 図 247 冊 雑 148 冊 新 1 種 D0 本 ②各図書施設の相互連携による利便性の向上 ・図書館システムを活用した相互貸出サービスの提供（年間約 800 件） ③子供の読書活動の積極的な推進 ・図書館 de カフェ 3/20 生涯学習センター35 名 ・くつろぎ図書館(毎月第1金曜日 大成図書館) ・ブックフェスティバルの開催 7/12 北檜山小、7/11 久遠小、9/26 瀬棚小 ・移動図書の実施(北檜山区/北小・学童、大成区/大中、瀬棚区/三杉荘)	・せたな町子どもの読書推進計画に基づいた事業の実施ができた。 ・計画的に事業が実施できている。 ・開架図書が増加しているため、計画的な除架・除籍作業が必要である。	自己評価どおりで良い	A

推進項目		事業の目的	実施状況	自己評価(成果と課題)	外部評価委員意見	評価
						R7
			・おはなし広場（7月～3月・毎月第3土曜・情報センター） ④学校図書室との連携 ・学校図書室支援員派遣 全 61 回 （北小 11、瀬小 11、久小 10、北中 9、瀬中 11、大中 9）			
2 5	芸術・文化 ①	芸術・文化に関する鑑賞機会の提供と内容の充実	①芸術鑑賞事業の実施 ・9/12 とびだせ！おと(音)もだちランド（対象：町内小学生） ②文化講演会事業の実施 ・10/23 せたな落語会：桂米助・桂竹丸・三遊亭げん馬・鏡味正二郎 203 名 ③芸術鑑賞機会の提供 ・5/16 ジョン神塚氏ピアノコンサート 104 名	・鑑賞事業を計画的に実施することができた。 ・計画どおり事業が実施できた。 ・ニーズに合わせた効果的な事業展開が必要である。	自己評価どおりで良い	A
2 6	芸術・文化 ②	文化団体の育成と自主活動の支援	①文化団体への支援 ・せたな町文化協会補助金 180,000 円 ・芸術鑑賞事業実行委員会補助金 630,607 円 6/30 アンダンテ・ウィンドアンサンブル 11/28 奏楽コンサート ②町民文化祭実行委員会への支援 ・町民文化祭実行委員会補助金 499,159 円 ・町民文化祭 作品 11/2～3 北檜山会場 504 名 11/2～4 瀬棚会場 265 名、11/2～4 大成会場 104 名 - 芸能 11/17 ふれあいプラザ 9 団体出演 215 名 ③団体と連携した事業の実施 ・1/9 新春書初め大会 7 名 ・通年 町民ギャラリー開設 7 団体 3 個人展示	・団体の要望に対して適切な支援ができた。 ・計画どおり事業が実施できた。 ・今後も関係団体の継続的な支援が必要である。	自己評価どおりで良い	A
2 7	芸術・文化 ③	文化財・郷土資料の保護・保存	①芸能団体への支援 ・せたな町郷土芸能団体連絡協議会補助金 4 団体加盟 120,000 円 ②郷土芸能伝承に係る指導業務 ・大成中学校の総合的な学習の時間での指導（久遠神楽保存会）	・各団体に対する活動支援を継続的に進められた。 ・今後も支援が必要である。 ・各団体において担い手の減少が著しいため、団体継続に向けた支援が必要である。	自己評価どおりで良い	B

推進項目		事業の目的	実施状況	自己評価(成果と課題)	外部評価委員意見	評価 R7
28	芸術・文化 ④	文化財・郷土資料の公開・活用	①郷土資料館等施設の活用 ・特別展示（B&G 体育館） 11/2～11/4 「せたな町の昆虫展」 265 名 ②文化財を活用した各種事業の実施 ・考古学講座 「アイヌ考古学」 3/1・5 名 3/2・7 名 「勾玉つくり体験」（親子でわくわく体験広場） 7/28 18 名 ・歴史講座 「せたなの史跡巡り-北檜山区編-」 3/23 5 名 ・文化財を活用した学校授業支援 久小(地質) 瀬小(アイヌ学習) 瀬中・北中(地域史) 実施	・文化財保護審議員と連携し文化財等の適正な維持管理を行った。 ・特別展示では、小学生から一般町民に対し広く文化財保護の啓発・普及が図られた。 ・文化財を活用した講座を行い、文化財に関する学習機会の提供が図られた。 ・文化財を活用した講座を行い、文化財に関する学習機会の提供が図られた。 ・ 計画的に事業を実施できた。 ・ニーズに合った講座内容を検討する必要がある。	自己評価どおりで良い	A
29	スポーツ ①	健康づくりや誰もが参加できる学習機会の提供	①体系的なスポーツ活動の展開・各種スポーツ教室の開催 ・2/27 健活ヨガ教室 26 名 ・2/18 トレーニング講座 19 名 ・7/7 レバンガ北海道バスケット教室 22 名 ・8/4 深川サッカー教室 48 名 ・11/23 コンパレーティブミント教室 18 名 ・3/23 ファイターズ野球教室 22 名 ・2/22 大森健作サッカー教室 10 名 ・5/26～10/26 キッズ運動教室 6 回 88 名 ・5/27～1/24 訪問キッズ体操教室 6 回 103 名 ・2/15 キッズトランポリン教室 24 名 ・6/18 シニア向け認知症予防運動教室 24 名 ・7/26・29 初心者水泳教室 25 名 ・6/13 一般向け水中歩行教室 8 名 ・1/15～20 初心者スキー教室(北檜山区) 33 名 ・1/22 初心者スキー教室(大成区) 7 名 ②ニュースポーツ・軽スポーツの推進 ・7/28 モルック体験会 ふれあいプラザ 30 名 ・12/1 モルック体験指導 瀬棚区町内会 16 名 ・12/10、3/11 モルック体験指導	・各教室とも、専門知識の習得や運動の基礎、実践を学習する機会として大いに活用されており、競技力向上や基礎体力向上の促進につながっている。 ・ 年代別のニーズに合わせて事業の提供ができた。 ・今後もニーズに合わせた事業の展開が必要である。	自己評価どおりで良い	A

推進項目		事業の目的	実施状況	自己評価(成果と課題)	外部評価委員意見	評価
						R7
			瀬棚ボランティアセンター 12 名 ③海洋スポーツの推進 ・水に賢い子どもを育む年間型プログラム事業 【北檜山小学校 4 年生 26 名】 6/17 オリエンテーション 7/1 川の水質調査（真駒内川） 8/28 カヌー体験 B&G 艇庫 7/10 着衣泳 9/20 魚の水揚げ場見学（鵜泊漁港） 12/1 木育（クラフト体験） 2/26 学習発表会 【瀬棚小学校 3～4 年生 8 名】 6/10 オリエンテーション 6/21 川の自然観察（馬場川） 7/18 水に親しむ活動(カヌー体験等)艇庫 9/13 森の自然観察 原田森林 11/8 海の資源観察(サフレック作り) 2/21 学習発表会 【久遠小学校 5～6 年生 5 名】 9/2 着衣泳 大成町民プール ・海洋スポーツ支援事業 7/15 B&G 海洋クラブの活動支援 (カヌー体験教室) 6 名			
30	ス ポ ー ツ ②	競技スポーツの振興	①各種スポーツ大会の開催 ・ 5/12 水仙まつり石段駆け上がり大会 106 名 ・ 12/7 子ども体力チャレンジ祭 小学生 28 名 ・ 2/1 大成スキー大会 雪不足により大会中止 ・ 3/16 檜山管内スポーツフェスタ 「フットサル競技の部」 町民体育館 参加チームが集まらず中止 ②スポーツ団体・選手への活動支援 ・ スポーツ協会補助金 781,789 円 ・ スポーツ少年団連絡協議会補助金 1,055,500 円	・ 各団体の運営に対する活動費助成や支援ができ、活動の活性化が図られた。 ・ 少年団指導者を対象とした指導者講習会を開催し、指導者人材の育成並びに指導力の向上が図られた。 ・ 大会の開催並びに各団体への支援についておおむね計画どおり実施できた。 ・ 引き続き団体への支援を行い、次世代の指導者の育成・指導力向上につなげていく必要がある。	自己評価どおりで良い	B

			・B&G 北海道フットボール交流交歓会補助金 0 円 交流交換会(水上の部)今後参加しない→剣道大会への参加に移行する ・全道全国参加奨励補助金(10 件) 1,937,000 円 ・スポーツフェスタ実行委員会補助金 78,800 円 ③各種指導者の養成 ・2/5 スポーツ指導者講習会 町民体育館(森町地域おこし協力隊 吉田雄人 氏) 10 名			
3 1	社会教育施設・社会体育施設の整備	社会教育活動に親しめる環境整備と施設機能の維持管理	①既存施設の総括的かつ効率的な維持と運営管理 ・各種施設運営管理 事務処理等随時対応 ②施設の改善や改修 ・スポーツ公園グラウンド改修工事(芝、土の入替) 1,430,000 円 ・夕陽が丘パークゴルフ場休憩所設置工事 4,048,000 円 ③施設の有効利用と適切な施設配置の検討 ④学校体育施設の開放 ・北檜山小、久遠小、大成中体育館開放	・予定していた工事及び改修はおおむね実施できた。 ・予定していた工事及び改修はおおむね実施できたがまだまだ改修すべき箇所は多い。 ・今後も改修・整備等については計画的に進めていく必要がある。 ・適切な施設配置の検討が必要である。 ・せたな町民体育館の建て替えについての検討が必要である。	自己評価どおりで良い	B
(評価指標) A 十分達成されている B おおむね達成されている C やや不十分である D 不十分である						